

地区名： 新開の住宅地	住 所： 桜区新開一丁目(4-30)
調査者： 中津原努	調査日時： 2019.10.12、13

コメント:

- ・新開一丁目に居住する妻の友人からの話。
  - ・住宅は床下浸水だったらしいが、駐車場の車が2台とも水に浸かってアウト。うち1台が保険が効いたが、もう1台は自腹で買い替えなければならない。
  - ・新開1丁目の町内では、多くの住宅で床上浸水で、近所の家で畳を干すのを手伝ったりしたらしい。
- ・自治会では、毎月防災対策会議を開いて準備をしていたのだが、道路が腰まで浸かってしまっでは何もできなかった。そのときそのときの状況で、話し合いどおりにならないことを痛感されたそうです。

写真等:



10/13、森本家から見た道路



10/13、近所のH家の床上浸水の様子

(以下、新開1丁目、森本恭子さんからの報告)

10月12日(土)

大雨予報により 風よりも雨のすごさ。

避難所がいつ開設されても良いよう 私は避難所運営委員の食糧班として 自宅でおにぎりや煮物を作って準備し始めました。

夕方から増水し始め、この段階で会長 副会長が一軒一軒会員宅を回りました。トイレが逆流し始めたため 水嚢をトイレと風呂場の排水溝に置き 近所にトイレの凝固剤をダイビングスーツを着て配りました。

23:00 給湯器が水に浸かったため 停電。近所でも停電が数軒 その段階で水位が最高位。

03:30 レベル4の市からのアナウンスが入るが、身動きできない状態。

夕方の段階で避難所に行かれた方もあり、市の職員が対応していましたが、役所は自治会に対して訓練しているメンバーへの要請は、何故か必要とませんでした。

10月13日

さわやかに晴れた日でしたが水位は減らず、道路は腰下まで浸かる状態。自治会の役員も自宅から一步も出られる状態ではなかった。

夕方から徐々に減り始めると同時に 被害の大きな家から安否と生活状況の聞き取りに歩く。

10月14日

水が完全に引いたので積極的に自治会が動き、使えなくなった畳や家具を集める場所を確保し

廃棄家具や粗大ごみを集積所まで協力して運びました。リヤカーや床下の水を吸い上げるポンプを貸し出す。

その間には、会長 副会長と役所の人が会議をし、自治会の要望を話し合っていました。

10月23日

市から道路、玄関先の消毒に来る。自治会で事前に希望をまとめておいたので、新開第一自治会の役員が立ち合い、全て希望通り消毒が終わる。

未だに片付けが終わらない家庭もあります。

反省として、

新開第一自治会には、防災アドバイザーが一役員としております。その方を中心に毎月会員を集めて会議をし、細かい報告や訓練をしておりましたが、「机上の空論」とはこの事で。

今後 地震と水害を分けて話し合わなければならないことを痛感しました。

避難所には役所の方が来てくれますが、早めに自治会に協力を求めれば、避難者の不満も少なくなるのではないかと思いました。そして被害に遭った場所は、自治会役員も被害に遭っていると言う事も頭に入れて、自助優先であることも再確認しました。

ゴミ収集から粗大ごみ収集まで回収して下さった業者の方々には親切にしてくださいました。